

2日目
13:15

【演習】

強度行動障害とコミュニケーション

社会福祉法人 こころみる会
こころみ学園
草間 和斗

この時間の目的

行動障害の中には、話し言葉を理解することや、話し言葉などで相手に気持ちや意見を伝えることが難しいため、起きてしまうものがあります。

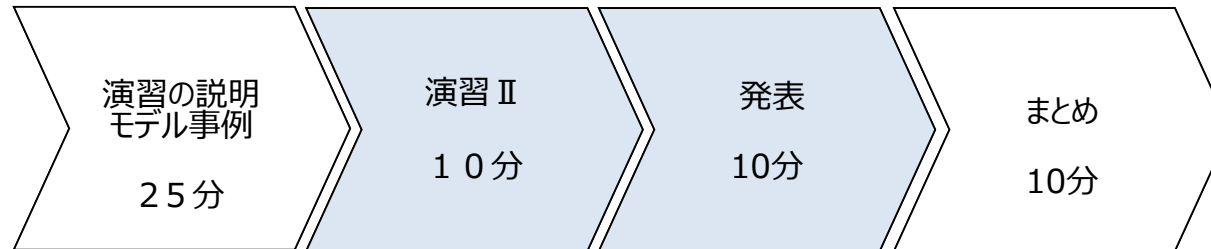
この時間ではコミュニケーションとしての行動障害の機能を検討し、適切にコミュニケーションを行う大切さを理解をする。

【ポイント】

行動障害の背景に、気持ちや意見を適切に表現することが難しいことや障害特性と環境要因が関連していることを理解する

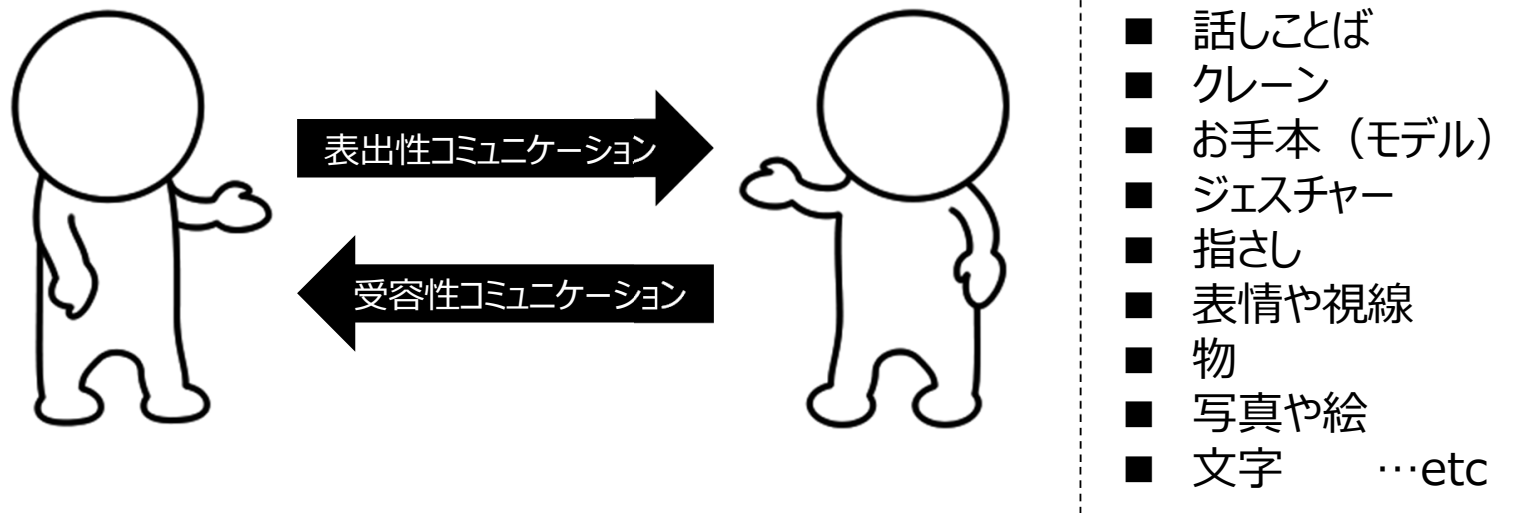
演習Ⅱ | 演習の流れ

■ 演習の流れ



- モデル事例は、演習Ⅱで行う内容や方法を紹介しますので、しっかりと聞いておいてください

演習Ⅱ | その前に



もう一度コミュニケーションの考え方について振り返ります。

コミュニケーションとは、①出し手（表出性）と、②受け手（受容性）の、やり取り（相互作用）のことを言います。そしてコミュニケーションの方法は、話しことば以外にも様々な方法があります。

表出性コミュニケーション | 機能



相手に伝えるコミュニケーションには、以下のような機能が含まれています。強度行動障害といわれる人の中には、行動障害として表されているものもあります。

要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること / 意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
情報提供	本人が既に知っている情報を他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者にその情報を求めること
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

※ 機能の分類は、その他の考え方もあります。本研修では、上記の7つとして考えます。

特定の利用者を突き飛ばす A さん

- Aさんが利用している障害者支援施設では、月に1回、誕生日会があり、全利用者60人が食堂に集まってお祝いをします。誕生日の利用者の紹介と本人の一言から始まり、最後は歌をうたってケーキを食べます。
- 自傷や他害がある自閉症のAさんも、誕生日会には毎月参加しています。ですが、いつも厳しい表情で周りをキョロキョロしながら、両手で耳を塞いでいます。最後のケーキだけを急いで食べると、走って自室に帰って行きます。
- 今日は誕生日会です。いつも通り、厳しい表情で食堂へ現れたAさん。両耳を塞ぎながら、周囲をキョロキョロしています。すると急に走り出し、突然利用者を突き飛ばしてしまいました。すぐに職員がかけつけました。突き飛ばされた利用者は、姿が見えたり声が聞こえただけで他害を受けていた、特定の利用者でした。

モデル事例 | 機能の考え方

- 一般的に「行動には何らかのコミュニケーションの機能」があると考えられています。行動障害も同様に、コミュニケーションとしての機能があります
- Aさんの「特定の利用者を突き飛ばした」行動の、コミュニケーションとしての機能にはどういったものがあるでしょうか
- その機能から推測される障害特性は



1. コミュニケーションの機能

- | | | | |
|-------------------------------------|------|--------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> | 要求 | <input type="checkbox"/> | 注意喚起 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 拒否 | <input type="checkbox"/> | コメント |
| <input type="checkbox"/> | 情報提供 | <input type="checkbox"/> | 情報請求 |
| <input type="checkbox"/> | その他 | | |

2. 話ことばに置き換えると...

例： 姿を見たくない（拒否）

3. 背景にある障害特性は...

例： 特定の利用者を探す
（物事に強く固執する）

Q. Aさんが突然利用者を突き飛ばした行動の機能を推測しましょう。

すべての機能を埋める必要はありません。相手を理解し、適切な支援を行うことが大切です。どの様な機能が働いているか、相手は何を本当に伝えたいのか、ということを考えてください。

- 要求** (必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
- 注意喚起** 周囲の人に対して、注意を向けさせること／意識させること
- 拒否** 他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
- コメント** 個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
- 情報提供** 本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
- 情報請求** 本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
- その他** 喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

機能	話しことばに置き換えると...
拒否	姿を見たくない
メモ 背景にある障害特性	

演習Ⅱ | 突然、服を脱ぎ出すBさん

- Bさんは中度の知的障害がある10代後半の自閉症の男性です。幼い頃から動き回るのがとても大好きだったので、土日の休みには、広い芝生がある近所の公園へ行くのが定番です。
- 普段はとても穏やかなBさんですが、両親には困っている事が、1つだけありました。それは決まって夏に起きます。いつも通り公園で遊んでいた時です。徐々に険しい表情になり、顔を真っ赤にさせたかと思うと、すべての衣類を脱ぎ、脱いだ衣類を持ってくることです。
- 「暑いからかな？」と思い、薄手の服を準備したり、冷たいお茶を出しても…やっぱり脱いでしまいます。「汗もほとんどかいていないのに。あっ！」お父さんは昨日のことを思い出しました。そういえば夕食後の歯磨きの時、袖に水が少しついただけで、上着を脱いでいました。その後、パジャマに着替えていたから気にならなかったけど、もしかして・・・

グループワーク

- もう一度「突然、服を脱ぎだすBさん」を読んでみましょう。
 - 個人ワークを5分・グループワークを5分で行います。
-
1. 「突然服を脱ぎ、衣類を両親に持っていく」というコミュニケーションの機能をグループ内でなるべく沢山考えてください（WS-1を使ってください）
 2. 話し合った機能を、話しことばに置き換えてください
 - ※ 1つの機能に、複数の意味があることもあります
 - ※ 記録者は、発表ができるように準備しておいてください
 3. 背景にある障害特性も話し合ってください。

Q. Bさんが公園で衣類を脱いだ後、衣類を両親に持っていった行動の機能を推測しましょう。



要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること／意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
情報提供	本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

機能	話しことばに置き換えると...
メモ 背景にある障害特性	

演習Ⅱ | まとめ

コミュニケーションには機能がある

要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること／意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
情報提供	本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

大切なこと： コミュニケーションの機能をしっかりと理解すること

演習Ⅱ | まとめ



モデル事例のAさんは、特定の利用者を突然突き飛ばしてしまいました。ここでの機能は「不快」と考えられますが、その背景には以下のような障害特性が推測されます。

- 特定の利用者を探す（特定の物事に強く固執）
- 特定の利用者を押す（特定の行動を何度も繰り返す）
- 声やノイズなど、Aさんにとって耐えがたいものであれば（特定の感覚が過敏、または鈍い）

コミュニケーションには様々な機能があります。言語や表情などは一般的に理解しやすいものですが、強度行動障害がある方の場合、非言語あるいは行動障害の中に、コミュニケーションの機能が含まれています。またその背景には、障害特性が関連しているという視点を持つことが大切です。

大切なこと：障害特性が関連しているという視点をもつこと

演習全体のまとめ

- 話ことばだけでなく、様々なコミュニケーションの方法があり、それを意図的（計画的）に使う工夫を学んでもらいました。また「伝わらない」背景に、障害特性が関係していること、障害特性を理解しておくことの大切さを学んでもらいました
- コミュニケーションとは、①出し手（表出性）と、②受け手（受容性）の、やり取り（相互作用）のことをいいます
- コミュニケーションには機能があること、行動障害もコミュニケーションの一つとなっていることを学んでもらいました。また受容性と表出性のコミュニケーションには、障害特性が関係していること、障害特性という視点を持つことの大切さを学んでもらいました

演習全体のまとめ

- 強度行動障害者の多くは、「話しことばの理解」「話しことば以外の手がかりの理解」「手がかりにタイミングよく注意を向けること」の3つが苦手な人たちです（理解／受容性）
- 強度行動障害者の多くは、「話しことばで伝える」「話しことば以外の方法で伝える」「適切なタイミングで伝える」の3つが苦手な人達です（表現／表出性）
- 障害特性をしっかりと理解し、強度行動障害者本人が理解できる方法で、「分かる」「伝えられる」コミュニケーションを行うことが、コミュニケーション支援の大切なポイントになります。

参考文献

- 坂井聡（2013）『自閉症スペクトラムなど発達障害がある人とのコミュニケーションのための10のコツ』エンパワメント研究所.
- アンディ ボンディ・オリ フロスト（2006）『自閉症児と絵カードでコミュニケーション -PECSとAAC』（園山繁樹・竹内康二訳），二瓶社
- L・R・ワトソンほか（1995）『自閉症のコミュニケーション指導法 - 評価・指導手続きと発達の確認 -』（佐々木正美・青山均訳），岩崎学術出版社

